

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------------|----------------|----------------|-----------|
| 事業所番号 | 1493300014 | 事業の開始年月日 | 平成18年4月1日 |
| | | 指定年月日 | 平成18年4月1日 |
| 法人名 | 有限会社 水車の里 | | |
| 事業所名 | グループホーム水車の里 | | |
| 所在地 | (226-0017) | | |
| | 横浜市緑区新治町1101-2 | | |
| サービス種別 定員等 | ■ 認知症対応型共同生活介護 | 定員計 | 18名 |
| | | ユニット数 | 2 ユニット |
| 自己評価作成日 | 令和7年12月1日 | 評価結果 市町村受理日 | 令和8年3月24日 |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム入居という新たな生活のスタートにおいて家族やなじみの方との交流が継続できることはもちろんのこと、グループホーム周辺の地域の方々など、新たななじみの関係が構築できることを大切にしています。
また地域に向けホーム内でアイスクリーム屋を開店したり、ハロウィンなどのイベントを開催したりすることで、グループホームが地域の方たちにとってもなじみの場所となるよう取り組んでいます。またこの取り組みを通して地域の子供たちや高齢者などさまざまな人たちが困ったときに水車の里へSOSを発信してくれる、そんなグループホームを目指しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|-------------------------------------|---------------|-----------|
| 評価機関名 | 株式会社フィールズ | | |
| 所在地 | 251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階 | | |
| 訪問調査日 | 令和8年1月15日 | 評価機関 評価決定日 | 令和8年3月13日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<優れている点>
2019年から始めたアイスクリーム屋の運営を軸に入居者の社会的な役割を確立し、地域における24時間体制のセーフティネットを構築しています。多世代がつながる取組は、「第12回かながわ福祉サービス大賞」を受賞しています。入居者が接客を担うことで地域との継続的な接点を生み出しています。今年度からは「大ピンチひなんじょ」として、困りごとを抱える子どもを24時間365日受け入れる体制を運用しています。アイスクリーム屋に初めて来店した子どもに対しても主体的に声をかけ、日常的な関わりを通じて、非常時に頼れる場所としての認識を地域に広める活動を継続しています。高齢者に限定せず、SOSを発する地域住民に寄り添う体制の強化を図っています。近隣の子どもの「はじめてのお使い」の場所にもなっており、入居者が自宅まで送り届けることもあります。また、申し送りや記録において「不穏」や「帰宅願望」といった専門用語を排除しています。入居者の行動の事実とその背景にある理由を具体的に言語化する指導を徹底しており、職員が本人の本当の思いを把握し、次の支援につなげる「根拠のあるケア」を実践しています。入居者の尊厳を維持する個別ケアの徹底と、地域社会の課題解決を両立させています。日常の関わりから信頼関係を構築し、地域共生社会の実現に向けた取組を行っています。

<工夫点>
月1回、担当職員を変えて入居者の希望を聞き取るミニケアプランを実施しています。聞き取った内容をシフトに反映し、外食や外出などの希望を実現しています。担当を毎月変えることで、職員それぞれの視点から入居者の新たな一面を発見し、多角的な支援につなげています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

| 評価項目の領域 | 自己評価項目 | 外部評価項目 |
|------------------------------|--------|--------|
| I 理念に基づく運営 | 1～14 | 1～10 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 15～22 | 11 |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 23～35 | 12～16 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 36～55 | 17～23 |
| V アウトカム項目 | 56～68 | |

株式会社フィールズ

| | |
|-------|-------------|
| 事業所名 | グループホーム水車の里 |
| ユニット名 | 1階ユニット |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | <input type="radio"/> | 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|-----------------------|--|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | <input type="radio"/> | 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|---|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 日々のケアはもちろんのこと、課題が発生した時やケアに迷った時の道標となっている。今後はカンファ等に参加できないスタッフへOJT等にて共通理解できるよう取り組んでいくことが重要かと考えます。 | 理念は職員の成長と施設の状況に応じて3回変更しています。第1回は「その人らしく暮らす」、第2回は「地域」を追加し、現在は「共に歩む」「すべてのご縁に感謝」「福祉の仕事の価値を創造します」を掲げています。理念は職員の実践から生まれています。入居者と職員、家族を含めた「大家族」としての関係性を重視し、根拠のあるケアを通じて介護職の専門性を高めることを目指しています。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 日頃から積極的に挨拶を行っています。また入居者の方が防犯パトロールや町内一斉清掃、近隣で開催されている地域・子ども食堂でのボランティア活動などに参加することで、顔なじみの関係が構築されています。 | 利用者から利用者へ継承したアイスクリーム店を拠点に、入居者が接客を担うことで自己実現と地域交流を促進しています。今年度は「大ピンチひなんじょ」として子どもの居場所づくりを展開。管理者が初回来店者に声をかけるなど日常的な関わりを通じて信頼を構築し、困った際に頼れる地域のセーフティネットとしての役割を主体的に果たしています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 管理者が認知症介護指導者であることからさまざまな場所にて認知症に関する啓発活動や研修講師などの活動を行っています。また認知症に関する相談などにも柔軟に対応しています。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 事業所が地区の境界線にあるため2つの自治会に加入し、双方の自治会役員や民生委員、包括職員、入居者、家族などを中心に開催しています。会議は2か月に一度の頻度で開催し情報の共有を図っています。 | 会議は、地域と入居者が自然に交流する場として開催しています。会議では、日常の入居者の様子を見てもらい、入居者とスタッフが家族のように暮らす関係性や、認知症への理解を深めています。入居者がお茶を入れて参加者に提供する等、日常の延長線でおこなっています。避難訓練を会議時に実施し、実際に顔を合わせて関係性を築くことで、地域住民に協力してもらうなど、地域の一員として連携に努めています。 | 地域共生社会の実現に向けた有効なモデルケースとして、近隣施設との交流から、認知症介護の底上げが期待されます。 |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。 | 行政が主催する認知症に関する啓発イベントや認知症初期集中支援チームの検討会議、認知症キャラバンメイトの会議などに参加しています。また会長を務める神奈川県認知症高齢者GH協議会を通じて行政との連携を図っています。 | 利用者の支援の取り組みを始める際に、行政に相談し、どのようなり組を行うのか、またその目的について丁寧に確認しながら進めています。地域の子どもたちのための「大ピンチひなんじょ」の取組を行い、第12回かながわ福祉サービス大賞を受賞し、事業所の取組として横浜市にも発信しています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。 | 入居者の方が主体的に生活できることを大切にしています。常にゆとりを持って見守れること、ご本人の行動を確認し、何がしたいのか、この行動にはどのような思いが隠れているのか、常に考え続けていくことが大切だと考えています。 | 神奈川県身体拘束廃止推進モデル施設に認定されています。玄関、ユニットの施錠をせず、入居者は目的を持って自由にホームの中を往来しています。施錠しない支援で、入居前に不穏症状が出ていた入居者も開放することで、洗濯物を干しに行く、新聞を取りに行く、スロープを掃く等、本来の暮らしを取り戻しています。職員に言葉で説明し頭で理解するだけでなく、入居者の変化に出会えたことで職員が変化しています。転倒リスクは誰にでもあると家族に伝え、自由な暮らしを優先しています。 | |
| 7 | 6 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。 | 不適切なケアを虐待の芽と考え、気づきシートにて現状の共有を図ったり、言葉遣いなど日々のケアの振り返りを行うことを大切にしています。ケア方法に悩んだ時には理念に立ち返りケア方法の見直し、検討を行っています。 | 入居者へ伝える言葉をとても大切にしています。「面会」ではなく、「来苑」としてほしい旨も家族に伝えていきます。利用者が不安になる行動を徹底して排除し、例えばレビー小体型認知症の入居者には光の反射で不安にならないよう環境を整える等、理由を職員に伝えて実践しています。職員の一日の動きを撮影したビデオを家族会で上映し、朝7時からの入居者との関わりを公開することで、支援の透明性を確保し、虐待防止に繋がっています。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | オンデマンド研修をメインに学びの機会をつくっています。また管理者が成年後見人としての活動も行っているため必要な制度につながるよう支援しています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約時には丁寧な説明を行うよう心がけています。また見学の時から当事業所のできることで、できないことなど事業所の特徴を分かりやすく伝えることを大切にしています。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 日頃から家族とは積極的にコミュニケーションを図り、意向や思いを伝えやすい関係を構築していくことが大切だと考えています。コミュニケーションツールとして毎月のお手紙や交換連絡ノートなどを活用しています。 | 毎日洗濯を行う入居者から、干す場所が足りないとの要望には、即購入しています。また、家族も含めて大家族として関わっています。事務所に交換連絡ノートを設置し、家族と職員が自由に意見や要望を記入できるようにしています。職員に伝えたいタイミングなどを気にせず記入できるため、家族の意見を運営に反映しやすくなっています。例えば「爪が伸びている」という記載には「爪切りをご自由にお使いください」と返信し、家族自身が対応するなど、双方向のやり取りから家族の声を運営に活かす仕組みとなっています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 外部評価 | | |
|-----------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 自己評価 実施状況 | 外部評価 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 会議等を活用しスタッフの意見や意向を確認できる機会をつくっています。スタッフの提案で裏庭を物干しスペースに改修したり、半年に一度の日帰り旅行なども始めました。 | 職員の意見を積極的に事業運営に反映しています。居酒屋で集中できなくなった入居者への1対1外出や、会話から得た情報でのスナック探しなど、職員の提案を実現しています。コロナ禍でアイス販売中止後も、職員の「継続しましょう」という声で再開するなど、職員の自主的な工夫を尊重し取り入れています。 | |
| 12 | 9 | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 就業環境については管理者から法人へ実情やスタッフの意見等を伝えながら管理者中心に環境の整備を行っています。一人ひとりの状況に応じて柔軟に仕事を休めるなど、お互いに助け合いながらの働きやすい環境づくりに努めています。 | 職員が専門職として誇りを持てる環境を整えています。「なぜこの支援をするのか」「なぜこの行動が入居者の不安につながるのか」を職員が自信を持って説明できるよう、根拠のあるケアを徹底しています。専門用語ではなく具体的な行動と理由を記録することで、介護職の価値を高めることを目指しています。職員同士が互いに注意し合う文化を定着させ、先輩職員が新人を育成するなど、チームで支え合う関係を築いています。職員が自立して運営できる土台を構築し、管理者不在時も質の高い支援を継続しています。 | |
| 13 | 10 | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 人材育成については管理者に一任されています。オンデマンド研修などを活用しながらホーム内にて研修会を開催したり、外部研修に参加できるようシフトを調整するなど、学びの機会を確保できるよう努めています。 | 新人職員は管理者と常勤職員が育成を担当し管理者が直接関わることで、事業所の理念や支援方針、職員として大切にしたい姿勢を最初に明確に伝えています。日常業務そのものが研修の場とし、職員同士が互いに注意し合いながら学んでいます。外部研修は自発的参加を推奨し、特にグループワークでの学びを重視しています。他施設の職員と知り合い、様々な意見に触れることで視野を広げてほしいと考えています。必要時は専門職を招いて研修会を開催する等、実践的な学びの機会を提供しています。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。 | 19年以上管理者の交代もないので地域の仲間（同業者）との関係性も構築されています。またスタッフ同士の交流の機会などについても企画や運営を行っています。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 必ずご本人に見学に来ていただき、グループホームの説明を行っています。入居当初の不安定な気持ちを理解し、本人の思いを丁寧に傾聴することを大切にしています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 入居前の段階（入居待ちの時）から家族の不安や思いを丁寧に聞き取り、さまざまな相談に対応しています。また家族が思いをスタッフに伝えやすい環境をつくっていくことが大切であると考えています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 見学などの段階からご本人の困りごと、ニーズを確認し、必要なサービスを検討することを心がけています。実際に他のサービスの利用につながった事例もあります。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 入居者の方が主体的に生活できることを大切にしています。日々の生活行為についてはどのようなサポートがあればご自身で行うことができるのか検討し、入居者の方々のできることを増やしています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 家族も入居者の方の生活がより良くなることを共に考える仲間であると思っています。結果、ホームでの行事などにはすでに退居（お看取り）された方のご家族が参加するなど良好な関係が継続しています。 | | |
| 20 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。 | 携帯電話で家族と気軽に話をしたり、スタッフのサポートにて定期的に息子さんへ連絡を入れている方など柔軟な対応を心がけています。またパートナーが入居している施設を訪問する機会などもつくっています。 | アイスクリーム屋、子ども食堂へのスタッフ参加、防犯パトロールなど、地域活動を通じて入居者と地域住民が馴染みの関係を築いています。入居者が接客を担い、近隣の子どもたちと名前呼び合う関係になっています。継続的な関わりにより、近隣住民が入居者が公園にいたなどの自然に報告してくれる見守りネットワークができています。馴染みの関係が入居者の安心と地域の見守りにつながっています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | ユニットに関係なく、気の合いそうな入居者さん同士が交流できる機会をつくったり、リビング以外の場所に少人数で過ごせる居場所をつくり入居者さん同士が自発的に交流できるよう工夫しています。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | サービス終了後もホームの行事に招待したり、メールや手紙、SNSなどを活用した交流が継続されています。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 思いを聞くことを大切にしています。また趣味など自分らしく生活を楽しむ時間をつくっています。ミニケアプランで本人の希望を叶えるのみでなく、買い物やドライブ、午後からの散歩など、その時のニーズに合わせた対応を行っています。 | 毎月作成するミニケアプランは、入居者の思いや希望を職員が交代で聞き取り、日常的な行事食や趣味活動、外出などの実現につなげています。アイスクリーム販売やこども食堂への協力も入居者の要望をきっかけに、事業所の事業として定着させています。入居後1週間程度は24時間情報シートを作成し、入居者から都度表される言葉や願いを記録することで、その人が新たな環境で安心して過ごせるように努めています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 普段の何気ない会話から聞かれた本人らしい暮らし方や生活環境などを「気づきシート」などに記録しケアにつなげています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 本人の持っている力（身体機能、認知機能等）を理解したうえで、ご本人が自らの力を活用した日常生活ができるようサポートしています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 入居者さんで行うカンファレンスではとても深いところまで話を聞くことができます。その後、スタッフのみでカンファレンスを行い、入居者さんの意向や思いを共有し、ケアプランに反映させています。 | 利用者も参加するカンファレンスを開催しています。利用者が考える生活上の要望や活動についての意見を聴き取り、職員のカンファレンスにおいて、その内容や居室担当によるモニタリングを踏まえたサービス計画検討会議を実施しています。ケアプラン変更時には、事前に入居者や家族へ内容を説明し、同意を得ています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 日々のケア記録はもちろんのこと、気づきシートや業務日誌などにも記録を残し、職員間で情報を共有できるよう工夫しています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | 本人の状況を確認しながら、ホーム内での活動にこだわらず、さまざまな地域資源と連携しながらご本人のニーズを満たせることを大切にしています。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 地域・子ども食堂など、地域資源を活用しながら自分らしい暮らしを楽しめるようサポートしています。 | | |
| 30 | 14 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 以前はなじみの医療機関に通われていた方もいらっしゃいましたが、現在は皆さんホームの往診を利用しています。その他の科についてはなじみの医療機関を継続されている方もいます。 | 提携の医療機関により、定期的な内科診療や24時間体制の連携の他、必要時には精神科や歯科治療を受けることが出来る体制を整えています。入居者の生活を大切にするというホームの療養方針を医療機関の関係者とも共有しています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 訪問看護や往診先の看護職員などと情報を共有し、必要な医療が適切に受けられるよう努めています。 | | |
| 32 | | ○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時に必要な情報を提供するとともに、必要な治療が終了した場合には早期に退院ができるよう、医療機関に伝えていきます。 | | |
| 33 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 重度化やターミナル期の指針（ホームでの考え方）については入居時に説明を行っています。また変化する体調に合わせ、家族と話し合いを行いながら家族の思いに寄り添うことも大切にしています。 | 入居時の説明や、その後の話し合いにより生活の場での看取りについて理解を得ています。希望する人にはホームでの看取りやお別れ式（葬儀）を行っています。職員や家族だけでなく、入居者同志の仲間としての関わりも大切にしています。看取り期の個別ケアについては、理学療法士などの協力を得ながら職員の研修の場を設け適切なケアの実施に努めています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 緊急時の対応についてはオンデマンドなどの研修を活用し適切な対応が実践できるよう取り組んでいます。 | | |
| 35 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 年2回の消防訓練には近隣の消防署などにも参加いただき、定期的に訓練を繰り返すことで適切な対応が実践できるよう努めています。近隣住民の方にも参加いただき炊き出しなども行ったことがあります。 | 敷地内の備蓄倉庫に災害備蓄品を備え、定期的に倉庫の清掃と棚卸を行っています。備蓄品一覧を作成し使用期限の管理を行っています。年2回の避難訓練では消防署に参加してもらい避難経路の課題を相談しています。過去には運営推進会議後に避難訓練を実施し、地域住民に参加してもらうことで、災害時の協力体制を確認しています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 17 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 当然ながら入居者のプライバシーにかかわる話をリビングなど人前でしないなど、一人ひとりの人格や尊厳を尊重したケアの実践に努めています。 | 信頼関係を構築した上で、入居者自身に呼び方などを尋ね、本人が希望する呼び方で言葉かけを行っています。ケアの促しに拒否があった時も、職員同志で相談するのではなく、入居者にどうしたいのかを確認するようにしています。入居者が出来ることにはなるべく介入せずに見守る支援を行っています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 「○○しましょう」のような指示語は禁止し、常にご本人に選択してもらったり本人の意向を確認することを大切にしています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 大まかなスケジュールはあるものの、入居者一人ひとりの生活ペースを大切にしています。今、何がしたいのか、ご本人に伺いながら生活をサポートしています。またすぐに対応できない場合は丁寧に理由を伝えることを大切にしています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 翌日に着る服を一緒に考えたり、入浴時の着替えを共に考える等、ご本人が身だしなみやおしゃれを楽しめることを大切にしています。 | | |
| 40 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 入居者の方になじみの品をつくってもらったり、普段の食事でも一緒につくる時間を持つことを大切にしています。入居者の方の得意料理を家族と共に作ってくださったこともあります。 | 日常の食事の調理は職員が行いますが、配下膳やお茶配りは入居者が自身の役割として行っています。適宜実施している特別食では入居者の出身地の料理や食べたい物を一緒に作って楽しんでいます。ホーム周囲の畑から野菜の差し入れを受けた際も、入居者と一緒に調理して旬の料理を楽しんでいます。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 宗教的な理由や苦手な食材などについても柔軟に対応し必要な栄養が確保できるよう努めています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 訪問歯科などに助言をいただきながら必要なケアが実践できるよう取り組んでいます。 | | |
| 43 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 必要な声掛けや誘導が行えるよう見守ることで、排泄の失敗が軽減できるよう取り組んでいます。ホームでは綿パンツを着用している方も多いため、継続できるよう丁寧なケアが必要と考えます。 | ほとんどの入居者はトイレを使用しており、自分で出来る部分は職員が介入せず見守り中心のケアを行っています。夜間にトイレ誘導や尿取りパットが必要な入居者にも介助は1回程度とし、睡眠時間の確保を大切にしています。日課の散歩により入居者の下肢機能の維持・向上を図り、排泄の自立につなげています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 下剤のみに頼らず、運動や腹部マッサージ、食材などを工夫することで便秘の予防に努めています。 | | |
| 45 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。 | 入浴の時間や入浴回数、入浴に要す時間、同性介助など、可能な限りご本人の意向が反映されるよう努めています。無理強いすることはありません。 | 午前中は散歩を希望する入居者がほとんどの為、午後に入浴を実施しています。毎日入浴を希望する人や1時間以上入浴する人もいますが、なるべく本人の希望に沿って実施しています。行事などにより入浴時間の変更が必要な場合は本人に確認した上で変更しています。こだわりのシャンプーなどがある場合は個別に用意し使用しています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 日中気持ちよく活動できることで夜の安眠につながっています。また就寝時間が遅い方にはリビングでゆったり過ごしていただけるよう、環境の調整を行っています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | すべての服薬情報をファイルやタブレットにて確認することができます。また食事の摂取量などにより服薬量に変更される内服薬については一覧表で確認することができます。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 毎月入居者の方のやりたいことなどを担当職員が聞き取り、ミニケアプランを作成することで余暇が楽しめる機会をつくっています。外食に出かけたり、なじみの場所を訪問したり、入居者の方の楽しみの一つとなっています。 | | |
| 49 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。 | 日課の散歩のほか、買い物やドライブなどご本人から聞かれた希望を共に叶えることができるよう、臨機応変な対応を行っています。また日帰り旅行や季節のドライブ等（桜やイルミネーションなど）工夫しています。 | ホームは日中開錠し、入居者が自由に敷地内の畑や外に出て植物の世話や洗濯物干し、外気浴ができるようにしています。毎日の散歩は習慣になっており、入居者自ら身支度をして職員と一緒に出かけています。ミニケアプランや日常の会話の中で入居者から出た希望はなるべく実現できるよう、外出を企画しています。過去には花見や外食、居酒屋などに出かけています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | お財布を所持されている方も多く、買い物の際にご自身で支払いをされる方もいらっしゃいます。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | スマホなどを活用できるようサポートを行うことで、他者との交流を継続できるよう努めています。 | | |
| 52 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 季節感を感じるインテリアグッズや入居者さんが生けた季節の花などを飾り、居心地の良い空間づくりに努めています。また入居者さんと一緒に自分らしい部屋づくりなども行っています。 | 入居者の状態に合わせて、食堂のソファや家具の配置を工夫しています。共有スペースで職員や入居者同士でゆっくり会話できる場所として、各フロア事務室前に複数の椅子を設置しています。入居者が外出時に身だしなみチェックをおこなえるよう、フロア出入口に鏡を設置しています。入居者からの「職員の名前が覚えられない」との意見を受けて、職員の写真と名前を廊下に掲示しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 少人数で行える場所や仲の良い入居者の部屋を訪問するなど、入居者の方が好きなスペースで過ごせるよう工夫しています。 | | |
| 54 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 入居時はなじみの家具等を使っていたり、安全に配慮し本人の身体に合ったベッドを使用したり、導線を考えた家具の配置など、本人が暮らしやすい環境づくりに努めています。 | エアコンとカーテンは備え付けですが、照明やベッド・寝具、家具は本人が使い慣れた物を持ち込んでいます。線香など火災の危険がある物は持ち込みを禁止していますが、入居者が長年使用していたミシンや裁縫道具などは、入居後も居室で使用しています。転倒による怪我があった際は、居室内環境を見直し、ベッドの手すりに緩衝材を取付けています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 居室の入口にご本人手作りの作品を飾ったり、生活用品の保管場所を入居者の方も活用できるよう、共に繰り返し案内をしています。 | | |

| | |
|-------|-------------|
| 事業所名 | グループホーム水車の里 |
| ユニット名 | 2階ユニット |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | <input type="radio"/> | 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|-----------------------|--|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | <input type="radio"/> | 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="radio"/> | 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 日々のケアはもちろんのこと、課題が発生した時やケアに迷った時の道標となっている。今後はカンファ等に参加できないスタッフへOJT等にて共通理解できるよう取り組んでいくことが重要かと考えます。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 日頃から積極的に挨拶を行っています。また入居者の方が防犯パトロールや町内一斉清掃、近隣で開催されている地域・子ども食堂でのボランティア活動などに参加することで、顔なじみの関係が構築されています。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 管理者が認知症介護指導者であることからさまざまな場所にて認知症に関する啓発活動や研修講師などの活動を行っています。また認知症に関する相談などにも柔軟に対応しています。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 事業所が地区の境界線にあるため2つの自治会に加入し、双方の自治会役員や民生委員、包括職員、入居者、家族などを中心に開催しています。会議は2か月に一度の頻度で開催し情報の共有を図っています。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 行政が主催する認知症に関する啓発イベントや認知症初期集中支援チームの検討会議、認知症キャラバンメイトの会議などに参加しています。また会長を務める神奈川県認知症高齢者GH協議会を通じて行政との連携を図っています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。 | 入居者の方が主体的に生活できることを大切にしています。常にゆとりを持って見守れること、ご本人の行動を確認し、何がしたいのか、この行動にはどのような思いが隠れているのか、常に考え続けていくことが大切だと考えています。 | | |
| 7 | 6 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 不適切なケアを虐待の芽と考え、気づきシートにて現状の共有を図ったり、言葉遣いなど日々のケアの振り返りを行うことを大切にしています。ケア方法に悩んだ時には理念に立ち返りケア方法の見直し、検討を行っています。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | オンデマンド研修をメインに学びの機会をつくっています。また管理者が成年後見人としての活動も行っているため必要な制度につながるよう支援しています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約時には丁寧な説明を行うよう心がけています。また見学の時から当事業所のできること、できないことなど事業所の特徴を分かりやすく伝えることを大切にしています。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 日頃から家族とは積極的にコミュニケーションを図り、意向や思いを伝えやすい関係を構築していくことが大切だと考えています。コミュニケーションツールとして毎月のお手紙や交換連絡ノートなどを活用しています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 会議等を活用しスタッフの意見や意向を確認できる機会をつくっています。スタッフの提案で裏庭を物干しスペースに改修したり、半年に一度の日帰り旅行なども始めました。 | | |
| 12 | 9 | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 就業環境については管理者から法人へ実情やスタッフの意見等を伝えながら管理者中心に環境の整備を行っています。一人ひとりの状況に応じて柔軟に仕事を休めるなど、お互いに助け合いながらの働きやすい環境づくりに努めています。 | | |
| 13 | 10 | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 人材育成については管理者に一任されています。オンデマンド研修などを活用しながらホーム内にて研修会を開催したり、外部研修に参加できるようシフトを調整するなど、学びの機会を確保できるよう努めています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。 | 19年以上管理者の交代もないので地域の仲間（同業者）との関係性も構築されています。またスタッフ同士の交流の機会などについても企画や運営を行っています。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 必ずご本人に見学に来ていただき、グループホームの説明を行っています。入居当初の不安定な気持ちを理解し、本人の思いを丁寧に傾聴することを大切にしています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 入居前の段階（入居待ちの時）から家族の不安や思いを丁寧に聞き取り、さまざまな相談に対応しています。また家族が思いをスタッフに伝えやすい環境をつくっていくことが大切であると考えています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 見学などの段階からご本人の困りごと、ニーズを確認し、必要なサービスを検討することを心がけています。実際に他のサービスの利用につながった事例もあります。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 入居者の方が主体的に生活できることを大切にしています。日々の生活行為についてはどのようなサポートがあればご自身で行うことができるのか検討し、入居者の方々のできることを増やしています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 家族も入居者の方の生活がより良くなることを共に考える仲間であると思っています。結果、ホームでの行事などにはすでに退居（お看取り）された方のご家族が参加するなど良好な関係が継続しています。 | | |
| 20 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 携帯電話で家族と気軽に話をしたり、スタッフのサポートにて定期的に息子さんへ連絡を入れている方など柔軟な対応を心がけています。またパートナーが入居している施設を訪問する機会などもつくっています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | ユニットに関係なく、気の合いそうな入居者さん同士が交流できる機会をつくったり、リビング以外の場所に少人数で過ごせる居場所をつくり入居者さん同士が自発的に交流できるよう工夫しています。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | サービス終了後もホームの行事に招待したり、メールや手紙、SNSなどを活用した交流が継続されています。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 思いを聞くことを大切にしています。また趣味など自分らしく生活を楽しめる時間をつくっています。ミニケアプランで本人の希望を叶えるのみでなく、買い物やドライブ、午後からの散歩など、その時のニーズに合わせた対応を行っています。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 普段の何気ない会話から聞かれた本人らしい暮らし方や生活環境などを「気づきシート」などに記録しケアにつなげています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 本人の持っている力（身体機能、認知機能等）を理解したうえで、ご本人が自らの力を活用した日常生活ができるようサポートしています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 入居者さんで行うカンファレンスではとても深いところまで話を聞くことができます。その後、スタッフのみでカンファレンスを行い、入居者さんの意向や思いを共有し、ケアプランに反映させています。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 日々のケア記録はもちろんのこと、気づきシートや業務日誌などにも記録を残し、職員間で情報を共有できるよう工夫しています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | 本人の状況を確認しながら、ホーム内での活動にこだわらず、さまざまな地域資源と連携しながらご本人のニーズを満たせることを大切にしています。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 地域・子ども食堂など、地域資源を活用しながら自分らしい暮らしを楽しめるようサポートしています。 | | |
| 30 | 14 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 以前はなじみの医療機関に通われていた方もいらっしゃいましたが、現在は皆さんホームの往診を利用しています。その他の科についてはなじみの医療機関を継続されている方もいます。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 訪問看護や往診先の看護職員などと情報を共有し、必要な医療が適切に受けられるよう努めています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時に必要な情報を提供するとともに、必要な治療が終了した場合には早期に退院ができるよう、医療機関に伝えています。 | | |
| 33 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 重度化やターミナル期の指針（ホームでの考え方）については入居時に説明を行っています。また変化する体調に合わせ、家族と話し合いを行いながら家族の思いに寄り添うことも大切にしています。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 緊急時の対応についてはオンデマンドなどの研修を活用し適切な対応が実践できるよう取り組んでいます。 | | |
| 35 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 年2回の消防訓練には近隣の消防署などにも参加いただき、定期的に訓練を繰り返すことで適切な対応が実践できるよう努めています。近隣住民の方にも参加いただき炊き出しなども行ったことがあります。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 17 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 当然ながら入居者のプライバシーにかかわる話をリビングなど人前でしないなど、一人ひとりの人格や尊厳を尊重したケアの実践に努めています。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 「○○しましょう」のような指示語は禁止し、常にご本人に選択してもらったり本人の意向を確認することを大切にしています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 大まかなスケジュールはあるものの、入居者一人ひとりの生活ペースを大切にしています。今、何がしたいのか、ご本人に伺いながら生活をサポートしています。またすぐに対応できない場合は丁寧に理由を伝えることを大切にしています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 翌日に着る服を一緒に考えたり、入浴時の着替えを共に考える等、ご本人が身だしなみやおしゃれを楽しめることを大切にしています。 | | |
| 40 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 入居者の方になじみの品をつくってもらったり、普段の食事でも一緒につくる時間を持つことを大切にしています。入居者の方の得意料理を家族と共に作ってくださったこともあります。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 宗教的な理由や苦手な食材などについても柔軟に対応し必要な栄養が確保できるよう努めています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 訪問歯科などに助言をいただきながら必要なケアが実践できるよう取り組んでいます。 | | |
| 43 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 必要な声掛けや誘導が行えるよう見守ることで、排泄の失敗が軽減できるよう取り組んでいます。ホームでは綿パンツを着用している方も多いため、継続できるよう丁寧なケアが必要と考えます。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 下剤のみに頼らず、運動や腹部マッサージ、食材などを工夫することで便秘の予防に努めています。 | | |
| 45 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。 | 入浴の時間や入浴回数、入浴に要す時間、同性介助など、可能な限りご本人の意向が反映されるよう努めています。無理強いすることはありません。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 日中気持ちよく活動できることで夜の安眠につながっています。また就寝時間が遅い方にはリビングでゆったり過ごしていただけるよう、環境の調整を行っています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | すべての服薬情報をファイルやタブレットにて確認することができます。また食事の摂取量などにより服薬量に変更される内服薬については一覧表で確認することができます。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 毎月入居者の方のやりたいことなどを担当職員が聞き取り、ミニケアプランを作成することで余暇が楽しめる機会をつくっています。外食に出かけたり、なじみの場所を訪問したり、入居者の方の楽しみの一つとなっています。 | | |
| 49 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | 日課の散歩のほか、買い物やドライブなどご本人から聞かれた希望を共に叶えることができるよう、臨機応変な対応を行っています。また日帰り旅行や季節のドライブ等（桜やイルミネーションなど）工夫しています。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | お財布を所持されている方も多く、買物の際にご自身で支払いをされる方もいらっしゃいます。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | スマホなどを活用できるようサポートを行うことで、他者との交流を継続できるよう努めています。 | | |
| 52 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 季節感を感じるインテリアグッズや入居者が生けた季節の花などを飾り、居心地の良い空間づくりに努めています。また入居者さんと一緒に自分らしい部屋づくりなども行っています。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 少人数で行える場所や仲の良い入居者の部屋を訪問するなど、入居者の方が好きなスペースで過ごせるよう工夫しています。 | | |
| 54 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 入居時はなじみの家具等を使っていただけよう伝えていきます。また安全に配慮し本人の身体に合ったベッドを使用したり、導線を考えた家具の配置など、本人が暮らしやすい環境づくりに努めています。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 居室の入口にご本人手作りの作品を飾ったり、生活用品の保管場所を入居者の方も活用できるよう、共に繰り返し案内をしています。 | | |

2025年度

事業所名

作成日： 8年 3 月 19日

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|---|--|---|------------|
| 1 | 3 | 各事業所が抱える認知症ケアの課題に対し、モデルケースとして近隣施設等との交流から認知症ケアの質の向上を図ることで共に地域共生社会の実現を目指す | 地域共生社会の実現を目指し、近隣施設等との交流から、互いの認知症ケアの質を向上することができる。 | ①近隣施設との運営推進会議の共同開催 ②近隣施設等との行事などの共同開催 ③認知症高齢者グループホーム連絡会等への参加 | 1 2 ヶ月 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |